

平成21年度第4回鳴門市公共交通連携協議会・鳴門市地域公共交通会議概要

日 時：平成22年3月30日（火）13時30分～14時50分

場 所：鳴門市役所共済会館3階大会議室

出席者：別紙

傍聴者数：1人

会議次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 鳴門市地域公共交通総合連携計画について
 - (2) 市営バス・地域バスの年次的スケジュールについて
3. 閉会

会議の概要

1. 開会
13時30分、開会。
2. 議事
 - (1) 鳴門市地域公共交通総合連携計画について

鳴門市地域公共交通総合連携計画について、「パブリックコメントの結果」「鳴門市地域公共交通総合連携計画の修正点」「地域公共交通活性化・再生総合事業に関する事後評価」「鳴門市地域公共交通総合連携計画の概要」について事務局より説明。

質疑応答後、各委員より異議なしということで「鳴門市地域公共交通総合連携計画」の策定を完了した。

[モビリティ・マネジメントの展開について]

委員より、モビリティ・マネジメントの展開について具体的な策があるのかという質問があり、事務局より、市役所においてノーマイカーデー等の推進も環境面から実施しており、その仕組みをもう少しやりがいのもてるようにするなど、お金をかけずにより公共交通に目を向けるようなことで何ができるのかということ協議していきたいと考えており、そういった取り組みについて、まずは市と教育大学辺りから広げていけたらと考えていると回答した。

関連して委員より、福山市ではベスト運動ということで、会員を募集して、何日か車に乗るのをやめてもらい、その分、ポイントを貯めていくという取り組みをしており、2万人を目指すという運動をしている。現在のモビリティ・マネジメントで重要なのは、組織よりは個人に対する働きかけで、健康に不安があるので車をや

めようと思っている人に対して、こういった方法があるといったことを個別に情報提供することで変えていくということで、そういったことも参考にして一人一人に対応するような方向性で進めてはどうかという意見があった。

[地域活動と連携したにぎわいづくりについて]

委員より、バス路線沿線での文化活動やスポーツイベントとの連携について具体的な案があるのかという質問があり、事務局より、現状の子どもホリデーフリーバスパスポートなどを使った中で、イベント時での活用を推進していこうと考えている。また、臨時便についてもその他の部分で出せるときがあればやっていけたらと考えており、にぎわいづくりとも関連して公共交通を利用できるような仕組みをさらに広げていきたいと回答した。

関連して委員より、高校総体の時などに選手や応援の人が鳴門駅から歩いて会場へ行っているのを見かけるので、そういったときに上手く何かできないかという意見があった。

[スクールバスについて]

委員より、スクールバスについて具体的な案はあるのかという質問があり、事務局より、スクールバスについては、今後学校の再編等を基本的な要素として考えており、現在具体的にどこへ走らせるといった案はないと回答した。

それに対し委員より、現状でも遠方から通っている子どもがおり、学校再編で合併した場合には、端のほうに住んでいる場合には絶対に遠くなる。交通事故の不安などで、幼稚園では保護者が送り迎えしている状態なので、その辺りはしっかりと考えてほしいという意見があった。

(2) 市営バス・地域バスの年次的スケジュールについて

市営バス・地域バスの年次的スケジュールについて事務局より説明。

[里浦栗津運動公園線の路線について]

委員より、里浦栗津運動公園線の地域バスの路線について、地域バスは小さなマイクロバスに変わったので、以前に走行していた路線を通ることは考えられないかという質問があり、事務局より、細い道で家の近くに入っていくほうが利用者は利用しやすいと思うが、安全面の問題等もあるので今後検討していきたいと回答した。

[競合路線の解消について]

委員より、競合路線の解消について事業者とどの程度協議が進んでいるのか質問があり、事務局より、協議についてはこれまで4回行っていると回答した。

[年次的スケジュールについて]

委員より、市営バスが企業会計をやめる時期や、各路線について、民間移譲、民間委託などどのような方法でいつするのかといったことが、どの程度計画として進んでいるのか質問があり、事務局より、各路線をどういった形にするか具体的なことはまだ決まっていないと回答した。

それに対し委員より、25年度末には企業会計をやめるが、それから先の民間委託や直営というものはまだ決まっていないのかという質問があり、事務局より、それぞれの路線についてどういった形にするかは、民間移譲、民間委託、資産の有効活用といった中から、各路線の特性や地域の現状等を踏まえて今後選択していくと回答した。

[老人等優待券について]

委員より、老人等優待券について、場合によってはもう少し幅広く市外と連携するなど大きな枠組みについても検討してはどうか。また、老人等優待券の使い勝手を良くしていく方法や、利用に応じて配布していくなど様々なやり方が考えられるので、効率的で負担が少ない方法を考えてほしいという意見があった。

[その他について]

委員より、スケジュールについて議会は承認しているのかという質問があり、事務局より議会にもこの資料は提出しており、同様の内容を報告していると回答した。

関連して副市長より、議会には、この会議の場での議論を踏まえ中間報告という形で報告した。議会からは、運営が厳しいのであれば公営企業としてできるだけ早くやめて、代替案的なものを検討してはどうかという意見があり、起債等の関係や、公共性をいかに担保して市民の足を担保するかという部分もあるので、今後の計画については公共交通会議等の議論も踏まえ、議会のほうにも十分に説明していきたいと説明があった。

委員より、公営交通をやめることは公共交通サービスをやめることではなく、鳴門市は、企業会計は赤字でやめるが、サービスは維持していくという方向性で、その維持するレベルはいろいろありニーズも様々で非常に難しいが、バスをやめるといったような伝わり方はしないようにしていけたらという意見があった。

事務局より、市ホームページへの議事録公開について報告した。

3. 閉会

議長より、今回の協議内容について公共交通連携協議会及び地域公共交通会議として認めることとする旨の発言をもって閉会した。

14時50分閉会。

平成21年度第4回鳴門市公共交通連携協議会・鳴門市地域公共交通会議 出席者

		地域公共交通 会議委員	公共交通 連携協議会 委員	出欠
鳴門市自治振興連合会会長	林 一重	●		○
鳴門市社会福祉協議会会長	多智花 亨	●		○
鳴門市幼小中PTA連合会会長	小西 努	●		○
鳴門市老人クラブ連合会会長	山尾 秀男	●		欠
鳴門市企業局次長	田村 豊	●	●	○
徳島バス（株）常務取締役兼営業部長	吉岡 正俊	●	●	○
（社）徳島県バス協会専務理事	関本 正康	●		○
徳島県タクシー協会（鳴門第一タクシー（有）取締役）	長尾 春代	●		○
鳴門市交通労働組合委員長	江澤 邦弘	●		○
国土交通省四国運輸局徳島運輸支局首席運輸企画専門官	佐野 満	●	オブザーバー	○
鳴門市副市長	平野 悦男	会長代理	会長	○
鳴門市企画総務部長	左倉 昇	●	副会長	○
国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所徳島国道出張所長	新池 保徳	●	●	欠
徳島県東部県土整備局（鳴門）維持管理担当技術課長補佐	岸上 務	●	●	欠
徳島県鳴門警察署交通課長	森 利行	●	●	○
徳島県県土整備部運輸政策総局交通政策課長	中本 頼明		●	代理者 出席
徳島県県土整備部運輸政策総局交通政策課課長補佐	中西 洋一	●		
徳島大学大学院教授	山中 英生	会長	●	○
国土交通省四国運輸局徳島運輸支局首席運輸企画専門官	石垣 融二		オブザーバー	○

・説明のため出席した者

鳴門市企画総務部総合政策局長	岡島 睦郎	
鳴門市企画総務部総合政策局企画調整課長	満壽 良史	事務局長
鳴門市企画総務部総合政策局企画調整課副課長	竹田 仁伸	事務局
鳴門市企画総務部総合政策局企画調整課主事	横手 史和	事務局